

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772100624		
法人名	株式会社 アフロサービス		
事業所名	みずいろの郷		
所在地	福島県本宮市本宮字館町122-1		
自己評価作成日	令和3年1月3日	評価結果市町村受理日	令和3年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年3月22日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・閑静な住宅地にあり、近くには公園やスーパー等があり、利便性が良い。</li> <li>・敷地内の畑で作る野菜や、代表者が作る米や野菜を使い、食事を提供している。</li> <li>・令和元年10月の台風による水害のため、利用者は他施設に避難、その間に、全職員、地域住民、利用者家族等の協力により、約2週間で、通常の生活に戻ることができた。</li> </ul>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コロナ禍にあっても感染防止に努めながら運営推進会議を開催している。委員から日光浴の提案を受け感染防止などに努めながら外出を楽しんでいる。また、参加している利用者代表から出た居室の夜間照明の要望についても常夜灯をつけるなど対応している。</li> <li>2. メニューは毎日担当職員が利用者と相談して決めている。また、野菜の下処理、食器洗い等可能な限り利用者に参加してもらい一緒に行っている。利用者の希望でソースかつ丼の出前を取ったり、誕生日メニューを工夫する等食事を楽しむ工夫をしている。</li> </ol>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前作成した理念を屋内の壁に貼り、職員全員が理念の共有と実践ができるよう意識して行動出来るよう努力をしている。その他、申し送りで職員同士が話し合う機会を設けている。コロナ禍により、専務含む全体ミーティングは殆ど行えず、申し送りにて職員同士話し合いを行っている。そのほか11月より全体ミーティングも再開し理念等共有出来るよう心掛けていく。	事業所開設時に作成した理念を事業所内に掲示しいつでも確認できるようにしている。職員は申し送りの際、話し合い確認できるようにしている。コロナ禍で全体会議を中止していたが、全体ミーティングを再開し、理念の共有に努めたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響により、極力地域との交流を控えている。	町内会に加入し、事業所の夏祭りや芋煮会を広報し、参加を呼び掛けている。コロナのため現在中止しているが、老人クラブ会員によるボランティアや図書ボランティアなどを受け入れ、交流を図っていた。コロナ後に再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本宮市の認知症ケア連絡協議会に参加し、職員対象の研修会を企画・運営の協力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議開催時には、施設内の利用状況や入居者様の生活状況を報告している。会議に出席していただいた方から、報告について貴重なアドバイスを頂いたりしている。ご家族様には参加してもらえるよう、声をかけている。	コロナ禍にあっても感染防止に努めながら運営推進会議を開催している。委員から日光浴の提案を受け感染防止などに努めながら外出を楽しんでいる。また、参加している利用者代表から出た居室の夜間照明の要望についても常夜灯をつけるなど対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症ケア連絡協議会の情報交換会に参加し、利用者様の相談をしたり、コロナ禍での情報を交換したりしている。包括支援センターが主催する会議に参加、事業所を知ってもらえるようにしている。	介護保険制度や利用者の困りごとをはじめ課題があれば、いつでも相談できる関係を気づいている。また、地域包括支援センターの会議に参加し、事業所の理解をいただくよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティングや申し送りの際に身体拘束をしないケアに取り組んでいくよう話し合いをし、全職員で共有できるようにしている。身体拘束はしないことを基本にしている。言葉の拘束について気付いたときは、その都度話し合いをし意識するようになっている。玄関の施錠については、夜間の防犯対策を除き、基本的に自由に入力できるように取り組んでいる。	身体拘束廃止指針を策定し、運営推進会議で身体拘束についての事業所の取組を説明している。全体ミーティングで話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事業所内研修で身体拘束について学ぶ機会を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待がみすごされないよう、職員同士で注意しつつ防止に努めている。また、言葉等での虐待がないよう職員同士意識して行動するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が成年後見制度を学べる機会を設け、必要な利用者様には支援できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際に丁寧な説明を心掛けている。ご家族様の疑問点や不安点についても、いつでも連絡して頂き、説明を行う旨を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話対応した際に、利用者様の近況を報告したり、利用者様の写真をご家族様へ郵送している。また運営推進会議にてご家族様に参加していただき、意見や要望を聞く機会を設けている。ご家族様へ連絡した際に、ご家族様の要望等の聞き取りに努めている。内容についてはケース記録に記載し、職員同士で共有できるようにしている。	利用者からは食べたいものや得意なものを聞き要望に応える取り組みをしている。また、面会時や電話で利用者の状況を伝える時、要望や意見を聞き職員間で内容を共有し、対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや全体ミーティングの際に管理者や代表者は職員からの意見を聞き、情報の共有化に努めている。職員の提案については、申し送り等で聞き、出来る限り、要望に応えられるように努めていきたい。	職員会議で支援方法について意見を出し合い、共有してケアに活かしている。また、ファンヒーターや空気清浄機等職員の要望や意見を本社に伝え、事業所の環境整備にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体ミーティングを開催し、代表者は職員からの意見を聞く場を設けている。また、全職員が向上心を持って働ける環境になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員へ資格取得するように働きかけたり、それぞれにあった研修会に参加するように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム協議会、本宮市の認知症ケア連絡協議会に参加し、市や地域包括及び他事業所との情報交換や交流を行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス前にご本人様と会話し、不安なことや要望等、出来る限り聞き、ご本人様が安心できる関係づくりに努めている。また、相談や問い合わせがあった際には、ご家族様やサービス担当者を通して各々回答し、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせや申し込みの際に、不安や要望を聞くように心掛けている。また実態調査の際にもご本人様やご家族様とよく話し合うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせや申し込み時にご本人様やご家族様から話を聞くようにしている。現在必要としているサービスが提供できるように、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者様が出来ることを状況に合わせてお願いしたり、好きなことが出来るように接している。また職員が一方的に物事を決めること無いよう、利用者様に選択してもらうように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会は極力控えてもらっているが、毎月利用者様の写真を送り近況を報告したり、運営推進会議に参加をお願いし、日々の活動を見て頂くようにしている。また、利用者様とご家族様の情報を共有化するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方へ電話や面会等して頂けるようご家族様へお願いしたり、ご家族様と通いなれた病院を受診したり馴染みの人や場所との関係が途切れることがないように支援に努めている。コロナ禍で面会は極力控えてもらっている。外出に関しては県外の方がいる場合等、特定の条件を除いて、ご家族様の希望があれば外出し、自宅等で過ごせるように努めている。	コロナ禍で現在面会の制限はあるが、県外からの訪問者を除き家族と外出している。また、毎月写真と一緒に担当職員のコメントを入れた手紙を送り家族とのつながりを保てるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内で孤立しないよう職員が利用者様同士の仲介をし、利用者様同士が関わりあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時にはご家族様へ、相談等に対応することを伝えている。必要であれば支援にも努めている。また、利用後にホームでの写真を希望される際にも随時対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で利用者様と話す機会を設け、出来る限り希望に沿った支援が出来るように努めている。また、ご家族様からの希望や意向を確認しながら、出来る限り利用者様本位のケアになるように支援している。日常生活の中で思いや意思の聞き取りに努めている。食事が進まない利用者について家族に連絡し、食事内容を変更するなどケアにいかしている。	入居の際は訪問して利用者の意向や希望を把握している。また、居宅のケアマネジャーからも情報を得るようにしている。日頃の表情や笑顔などから本人の思いをつかむ他、家族からも本人の意向を聞いて支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームに申し込みされた際にご家族様やご本人様、担当したケアマネ等から生活歴や生活環境、サービスの利用等の「情報を得る」ようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録に日々の様子や状態、行動、、言動を記入しスタッフ間で情報の共有化に努めている。また、それぞれの利用者様の生活リズムや体の状態に合ったケアを心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様、関係者等とよく話し合い、意見やアイデアを取り入れるなどして、現状よりもよりよく生活が出来るように介護計画を作成している。居室担当者の観察結果を基に介護計画作成担当者が検討し、必要に応じて介護計画の見直しに努めている。家族の中に地域とつながりを望む声もあり、傾聴ボランティアと利用者の会話の時間をつくるなど介護計画に取り組んでいく。	利用者や家族の意見を踏まえ、長期目標は1年間、短期目標は6か月で見直している。毎月職員の見聞き計画担当がモニタリングし、6か月ごと介護計画の見直しをしている。介護計画は、利用者の好みを活かすなど利用者がよりよい生活を送れる視点で検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に生活の様子や表情、スタッフが気付いたことを記入し申し送り時にも口頭で伝え、情報を共有出来るようにしている。また会議時にも状態が変化した際などには話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の希望や要望、状態に合わせて、提供出来るサービスを考え、希望に沿ったサービスの提供に心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの受け入れや、運営推進会議のメンバーに民生委員や老人会の方に参加をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様にご協力いただき、以前からのかかりつけ医に受診して頂いている。利用者様の急変時やご家族様の要望があればホームで対応している。結果はご家族様、ホームで共有するようにしている。本宮市内の利用者様が多く従来のかかりつけ医を継続している。受診時にはご家族様の同伴をお願いして、必要な情報を伝えるなど受診支援をしている。	コロナ禍でも通院方法を工夫しながら利用者や家族が希望するかかりつけ医を継続している。受診時は身体状況連絡票等で必要な情報を伝え、診断結果は家族と事業所の連絡を密にして共有している。また、職員間では業務日誌により情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内には看護職は在籍していない為、なにかあれば同法人内の看護職へ相談したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、スタッフが面会に行ったりしている。その際に病院関係者とご本人様について情報交換や相談をしたりしている。また、その内容をご家族様へ報告し、情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用前に事業所として支援できる事と出来ない事をご本人様やご家族様へ説明し納得していただいている。また、状況に変化があれば、随時ご家族様へ相談し、話し合うようにしている。食事が減ったりしたときは、身体能力などが次第に低下し、様々なリスクがあることをご家族様に説明している。終末期について、基本的には医師と相談し、医療機関で対応していただくようにしている。	重度化や終末期については、入居する前に口頭で事業所が対応できることを説明するとともに家族からの相談に応じている。看取りには対応していないが、かかりつけ医と連携しながら医療機関につないでいる。家族へ説明しているが同意書は取っていない。	入居時や状況変化時の説明時に、家族より書面による同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や初期対応の訓練を定期的に行っていない。今後、定期的な訓練を行い、全職員が適切な対応が出来るようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難経路、避難場所は決まっているが定期的な訓練や地域の方々との協力体制が築けてはいない。同法人の代表者が近隣に住んでいる為、何かあれば協力する体制になっている。消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認をし、安全に誘導できるようにしている。訓練に参加できなかったスタッフには、朝の申し送り時に確認してもらっている。	消防署立会い訓練で避難経路などの確認を行っている。火災・風水害、夜間想定避難、通報訓練など行っていたが、今年度は計画通りの実施ができていない。昨年度の水害経験から、避難場所を利用者にとって安全な特別養護老人ホームとの連携を検討している。	水害時の避難場所と想定している特養との連携、避難訓練時の近隣との協力体制の構築が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格を尊重し、誇りやプライバシー、羞恥心に配慮した声かけ、対応を心掛けている。排泄や入浴時にはさりげなく行うようにし、利用者様やご家族様との面会等には居室や事務所を利用させていただいている。居室前の氏名表示にも利用者様、ご家族様の意思を尊重しており、無表示のケースも受け入れている。呼びかけは、さん付けを基本として、顔を見ながら話しかけるようにしている。	排泄失敗時などには、本人の気持ちを考え他利用者に気づかれないよう、さりげない声掛けに心掛けている。入浴も同性介助に努めるなど羞恥心に配慮している。気になる言葉かけがあるときは、お互いに注意できる関係を築いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも自己決定ができるように利用者様の状態に応じて分かりやすい言葉での質問をしたり、声かけに工夫したりすることで会話や表情からも思いや希望を汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、その日の体調やそれぞれの生活リズム等も配慮し、利用者様の希望に沿って出来るだけ支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様に協力していただいて、利用者様らしい衣類を持参していただいている。また、定期的に散髪したり、入浴後に爪切りを行ったり、身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事やお茶の際には、テーブルを消毒したり、下膳を手伝っていただいている。スタッフがテーブルの近くに座り利用者様と会話しながら一緒に頂くことで好み等を把握し、利用者様の希望に沿えるような献立作りを心掛けている。メニューは担当職員が利用者様の好みや体調を考えたり、誕生日や季節感を取り入れて調理・提供するなど柔軟に対応している。	メニューは担当職員が利用者と相談して決めている。また、野菜の下処理や食器洗い等可能な限り利用者に参加してもらい一緒に行っている。利用者の希望でソースかつ丼の出前を取ったり、誕生日メニューを工夫する等食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量、排泄等を把握できるように各利用者様毎に記録を記入し、不足がないように注意し、不足があるようであれば提供するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に応じて声かけしたり、うがいや歯磨きの介助を行っている。嫌がった場合は、お茶や水を飲んでいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表で利用者様の状況を把握しながら時間でトイレの誘導を行っている。また、状況に応じて、尿パッドやオムツを使用しているが、出来るだけトイレに誘導し、排泄してもらうように支援している。利用者様の状況に応じて、尿パッドやリハビリパンツ、オムツを使い分けてストレスとならないように取り組んでいる。	利用者の排泄状況により布パンツ・尿取りパッド・リハビリパンツと使い分け、ストレスにならないよう取り組んでいる。定時の排泄誘導や利用者の表情や仕草などサインを見逃さず声掛けし、排泄の自立を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に乳酸菌飲料や牛乳を提供したり、出来るだけ薬に頼らずに、水分を多めに摂ってもらうよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	勤務体制の都合上、日中帯での入浴になっている。利用者様が希望する場合は出来るだけ応じていくよう取り組んでいる。入浴を嫌がる利用者様には対応を工夫したり、無理強いせず別な日に入浴してもらえるように支援している。ご本人様の希望や体調を考慮し、清拭やシャワー浴等で対応するなど、清潔にし気持ちよく生活できるようにしている。	入浴時間は午前と午後に設定し、利用者の状況に合わせて職員が声掛けをしている。重度の利用者はシャワーや足湯で対応し、希望すれば毎日入浴も可能になっている。入口にのれんを下げたり、入浴剤や菖蒲、ゆず湯等で気分を変える工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に応じて居室にて休んでもらったり、夜間良眠されるように活動していただく支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は事務所にて保管、管理を行っている。さらに日付や名前の印字も実施している。薬の変更があれば、記録に記入し、口頭でも申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様やご本人様から生活歴や趣味などを聞き、生活のなかで役割などが出来るような支援を行っている。その他、体操を行ったり、塗り絵を楽しんでもらうことで気分転換を図っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけご本人様の希望に添えるようにしているが、出来ない場合はご家族様に協力をお願いしている。また、なかなか外出する機会がない方には、外出する行事を計画し、参加を促している。コロナ禍で、外出する機会がなかなか作れずにいるが、デッキで外の空気を吸ってもらうなど、気分転換を図っている。	重度化し長時間歩ける利用者が少なくなってきたので、四季を感じられるようにドライブしたり、公園等に車で行き散歩をしたり、駐車場の散歩やデッキでの外気浴などで気分転換をしている。今年度は、コロナ禍で家族との外出・外食・外泊等は控えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者様が居ない為、買い物などは一時立て替えて対応している。トラブル防止の為、現金等持参しないようご家族様等をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から希望があった際には、電話をかけて居室内にて話していただいている。また、ご家族様や友人からの手紙や荷物が届いた際には、連絡を行い利用者様と会話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を招くような刺激に注意し、共有の空間では目印を付けたりカレンダーや季節感のある壁紙を飾ったり、工夫をしている。季節によっては天窓から強い日差しがはいってくるので、利用者様のことを考え、遮光することで刺激を抑えるように工夫している。共有空間では季節感のある飾り付けを行うなどメリハリのある空間作りに努めている。	壁面には行事を掲示したり、季節感のある飾りを利用者と一緒に作り飾っている。また、天窓は遮光カーテンで利用者にとって不快感(光・温度など)をまねかないように工夫している。温度計、湿度計で快適性に配慮する等、居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が会話しやすいような席にしたり、スタッフが間に入り交流できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居時にご自宅で使用していた馴染みの物を持参するようにご家族様へお願いしたり、入居後も希望している物を持参していただいている。また、身体状況に応じて、安心して過ごせる環境になるようご本人様と相談しながら居室内の配置換えなども行っている。利用者馴染みの品や愛用品をご家族様の協力を得て、配置を考えるなど落ち着ける居室作りを取り組んでいる。	家族に依頼し家財や位牌等を持参してもらい、利用者が安らげる生活を送れるように支援している。昨年度水害で、利用者の馴染みの品や愛用品が殆んど使えなくなってしまったが、新たに写真や作品を飾るなど家族や近隣の協力を得て整理整頓に努め、清潔で過ごしやすい居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は段差の無いバリアフリーとなっており、トイレや浴室・玄関には手すりを設置している。また、居室やトイレには目印を付け分かりやすいように工夫している。		